

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0196400063), 法人名 (有限会社 横木介護サービス), 事業所名 (グループホーム あふんの里), 所在地 (増毛郡増毛町阿分224番地の9), 自己評価作成日 (平成26年9月5日), 評価結果市町村受理日 (平成26年10月16日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあふんの里は、雄大な暑寒別岳や日本海に囲まれ、自然に恵まれた環境に位置しています。あふんの里がある阿分地区は民家が点在し、その周辺には畑が広がっています。地域の皆さんと顔なじみの方も多く、代表者や職員も居住し、いつでも支援できる体制になっています。入居者様の皆様は、散歩や外出やベランダにあるウッドデッキに出るの外気浴を通して、草花の美しさを感じたり、畑の野菜の成長を楽しんでいます。地域のの方々より、新鮮な野菜や魚の頂き物も多く、入居者様より知恵を頂き、職員と一緒に調理をしています。また、居室には、洗面所やトイレが設置しており、入居者様一人一人のプライバシーの確保や、排泄の支援が出来る環境作りを行っています。皆さんは阿分が大好きです。大好きな阿分で自分らしく生き生きと安心して暮らしていけるよう、職員共通の思いをもって日々介護させて頂いております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tr ue&JigvosvoCd=0196400063-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成26年9月25日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

増毛町阿分地区に建つ、平屋建て1ユニットの事業所で、リビングの大きな窓からは、緑豊かな丘や山を眺めることができ、四季の移り変わりを身近に楽しむことができる住環境にある。日当たりの良いテラスには、椅子やテーブルが置かれ、暖かい日のお茶会や日光浴等に利用されており側には菜園もある。事業所内は随所に工夫が見られ、介護者や利用者の動線を考慮した造りになっており、居間・キッチンを中心とし周りに居室が配置されている。各居室にはトイレ・洗面台があり、プライバシー保護に留意している。近隣住民とは買物や散歩時に気楽に挨拶を交わし、町内会主催の行事に参加し、また地域住民は事業所主催の行事や避難訓練に参加する等、良好な関係を築いている。管理者及び職員は、利用者の尊厳を重視し、一人ひとりの身心の状態に合わせたケアを実践しており、家族の信頼も厚い。さらに利用者別にアルバムを作成し、家族の訪問時には写真を見ながら日々の生活状況の説明をしている。また身体機能に合わせたレクリエーションや運動を日課とし、事所内でも楽しく過ごせるよう配慮している。地域密着型として、利用者本位の温かい事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff/user satisfaction.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をふまえ、職員全員が日々実践の取り組みをしている。職員が現況を毎日確認でき、来訪者にも見て頂けるよう玄関に提示している。	住み慣れた地域で人間関係や暮らしを大切にすることを念頭に、事業所独自の理念を作り実践している。理念は、日々のケアサービスに反映されているか常に確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域小学校の行事や町のお祭りに参加し、地域の方々との交流を深めている。	増毛祭りや小学校運動会等の地域行事に参加しており、法人本部で行われる盆踊り大会には地域の人々が多数参加している。新鮮な魚や野菜の差し入れ等も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会の中で入居者様の紹介や一人一人にどのような支援を行っているかを伝えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のメンバーは、入居者様ご家族、町内会役員、民生委員役員、町の担当職員、地域小学校校長先生と幅広い方々に参加して頂いている。行事等、現状の活動内容の報告、入居者様の紹介を行い、参加者の方より貴重なアドバイスを頂いている。	運営推進会議は家族代表・町内会役員・民生委員・町福祉厚生課職員等参加のもと定期的に開催され、入居者の紹介・事業所の取り組み・行事予定と報告・避難訓練等について協議しサービスの向上に活かしている。	運営推進会議議事録は簡潔に整理し、参加者及び利用者家族に送付を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーの一員として、毎回参加して頂き、貴重なアドバイスを頂いている。加えて、町が行っている研修にも参加し、当入居者の生活の質の向上につなげている。	ケアサービスの疑問や質問等は随時相談し、日常的に連絡を取り共にサービスの質の向上に取り組んでいる。町福祉厚生課職員は運営推進会議にも出席し、意見交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ず身体拘束を行っていた入所者様に対し、毎日外す取り組みをしてきた結果、身体拘束をしないケアを行うことが出来た。	指定基準を具体的に確認して、基本的なケアの実践に活かすよう職員相互の共有をはかり、利用者の安心と安全の遵守に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の立場になり、支援できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などが開催された時に参加し、制度などの理解を深めたいと思うが、学ぶ機会が少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時は、入居者様及び家族に対して、わかりやすく十分な説明を行い、質問や疑問にも細やかな対応を心がけている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情相談窓口電話番号を記載、日々の面会時、ご家族の方と会話できる機会を持ち、不満・苦情があった場合はそれを受け止め、速やかに対応できるように努めている。	利用者家族とのコミュニケーションを大切にし、来訪時の会話の中から意見要望を聞いている。家族アンケート結果は、事業所の運営に効果を上げている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングや月1回の職員会議を行う中で意見交換を行い、できる限り仕事しやすい環境を整えるように努めると共に業務上のトラブルがあった時は臨時の会議を開いている。	職員参加の全体会議は月1度開催し、意見や提案を聞く機会がある。また個別面談や人事考課で積極的に職員の意見等を聞き、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や介護職員より現状の勤務態勢について意見を聞きながら、改善に努めている。又、腰痛対策がとれているか、確認しながらできるだけ2人での介助に変更している。職員が現場での悩み等があった場合は、いつでも連絡をするように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1ヶ月に1回のグループホームの会議の中で職員研修を推奨している。必要に応じて図書の購入もしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、他施設に出向いたり、意見の交換をし、サービスの向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前より、ご家族を通し入居者様の意見を確認し要望等をしっかり受け止め、ご利用者様主体の介護を提供できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前よりキーパーソンとなる方を中心に、話し合いに参加できる機会をもうけ、ご家族の思い、施設に期待する事をしっかり聞き対応している。その際、苦情などはいつでも直接電話などで受ける事を付け加えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時の基本情報や入居者様・ご家族の方から聞いた話をもとに、その時に必要な支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご家族の代わりとなり、一緒に生活を楽しむ者として、入居者様に関わっている。お客様扱いではなく、調理・作業を一緒に行い、日々の生活を豊かに送れるよう努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に協力をして頂き、入居者様を共に支えて行けるようにしている。遠方に暮らしている家族へは、月に何度か電話をし、本人と会話をして頂き、家族との信頼関係を築けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来訪者の方が入りやすい声かけ、雰囲気作りを心掛けている。また、ご利用者様の意思を大切にして、外出時などなじみの商店に寄るなどの配慮をしている。	日本古来の風習や生活習慣を大切にし、ひな祭り・こどもの日・七夕・十五夜等を楽しんでおり、職員2名が同行し、お寺参りにも行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人の個性をしっかり捉え、孤立せず仲間意識や相手を思いやる気持ちを大切にして、お互いに補い合える生活が出来るよう支援している。(お誕生会での役割等)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後、何度か連絡を取らせて頂いたが、家族の方からは、相談等は何もなかった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話やちょっとした表情や態度から入居者様の思いを知り、職員で話し合い、出来る限り入居者様の意向に沿った暮らしが継続できるように心掛けている。	個々の思いや意向は、日常の様子や会話で把握するよう努めている。困難な場合は家族や関係者に相談し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用申し込み時に、入居者様、ご家族様よりライフヒストリーをしっかりと聞き、それを職員に周知し、日々の暮らしのベースとしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別のアセスメントシートに状態を記入し、入居者様の状態を総合的に把握し状態変化があれば朝のミーティングで方向性を打ち出している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族からの情報と職員からの入居者様情報を集約し、入居者様の意向とご家族の思いを考慮しながら、その人らしさを広げた介護計画作成に取り組んでいる。	定期的なモニタリングを行ない、利用者の変化や対応について家族・職員・医師と話し合い、利用者がより良く暮らすための介護計画を作成し、ケアに活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子(バイタル・排泄・睡眠・食事等)やケアの内容を毎日記録している。その中で気付いた事などを職員間で共有し、必要に応じてカンファレンスを行い、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員のみでは対応が難しい行事の支援も積極的に行っている。臨時的病院受診時(車椅子対応の人)車両を速やかに準備している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元小学校の行事(運動会・学習発表会等)を毎年観覧・参加させて頂いている。また、入居者様の栄養面で不安な事があれば、町の栄養士に連絡し、相談に乗ってもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時のかかりつけ医が継続され、職員が同行しての受診支援が行なわれている。訪問診療や訪問歯科受診も行われている。	利用者希望の、かかりつけ医への受診送迎や連絡を行ない、常に適切な医療が受けられるよう支援している。事業所には看護師が勤務し、利用者の健康を支えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師は配置されていないが、1週間に3回パートの看護師が配置されている。加えて、緊急時の対応や来設、また看取りの時は24時間オンコール体制としている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時による心理的ダメージを最小限にする為、入院中は週2～3回以上、面会し病院看護師と情報交換を行っている。退院については、受け入れ体制が整い次第、速やかに受け入れている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まだ対象者はいないが、入居時に終末期における同意書を交わしている。入居者様の状況変化時などに、ご家族・主治医と話し合いの場を設け、入居者様本位になるように取り組んでいる。	利用者や家族の意向・要望を基に、医療機関との連携体制を取り、重度化や終末期への方向性や指針を文書で確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による、初期の応急手当の研修会を年に1度必ず実施し、職員のレベルアップを図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で、災害時の協力体制がとれるようお願いしている。年2回、消防立ち会いの中で、避難訓練を実施し、地域の方々にも、助け人として参加して頂いている。	年2回消防署の協力の下、利用者や近隣住民と共に避難訓練を行っており、備蓄品も準備している。	火災以外の、台風・地震・津波などの自然災害に対応できるような防災訓練の実施と、訓練することで見えてくる倒れる危険のある家具や電気製品の固定等、運営推進会議や職員会議で検討することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であるという気持ちを持って接し、プライバシーに配慮した対応を行っている。	利用者の、プライドや羞恥心を大切に誇りを傷つける事がないよう、周囲に配慮しながら支援している。個人情報に関する書類は、適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	伝えたいことや思いを日常生活の中で汲み取り、一人一人の能力に応じて、選択の幅や言葉かけを考え、場面の提供を行う。答えを急がせず待つ姿勢を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな時間の流れは決まっている。外出など時間帯によっては希望に添えないことがあるが、出来る限り入居者様のペースで過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいおしゃれが出来るように配慮している。(季節にあった服装・整髪)ひな祭りには、お化粧をして写真撮影をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや盛りつけを一緒に行う事で、食事への楽しみが持てるよう支援している。誕生日は、本人が何を食いたいのかを確認し反映している。季節のお菓子作りを試み、季節感を味わって頂いている。	一人ひとりの力に応じて、職員と共に食事の準備、後片付けを行なっている。職員と共に食卓を囲み、談笑しながら和やかに食事をしており、食事が1日の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状態に合わせて、普通食・お粥・スライス食・きざみ食・ミキサー食を提供している。水分に関しては、1日1000mlを目標にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。義歯の取り外し等、ご自分で出来ることは行って頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人一人の排泄パターンや表情や仕草等のサインを読み取ながら、居室のトイレでの排泄を重視している。おむつ外しに努めている。	しぐさや表情から本人独自のサインを把握し、さりげなくトイレ誘導をしている。各居室にはトイレが完備され、プライバシーも保たれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘のしやすい方には、牛乳など便通に良いとされている食物の提供を促し、排便時に腹部マッサージを行い、自然排便を促している。それでも便秘が解消されない際は、医師と相談しながら、下剤を使用し、出来るだけ身体に負担のかからない対応を心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の生活リズムを考慮し、時間帯を設定している。また、体調不良などで入浴出来ない場合は、日を改めて入浴している。	利用者の体調や希望に合わせ、週2回以上入浴できるよう配慮しており、大き目の浴槽で、リラックスして入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムや習慣、状況に応じて支援している。また、眠れない時は安心する声かけや話を聞いたり、時には添い寝をしたり、ホットミルクを提供する等の工夫を行い、安心して眠れる環境作りに努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は個別に保管しており、薬についての把握や確認ができるよう、薬情シートもファイルしている。日々の状態変化にも注意し、定期的にかかりつけ医に報告・相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の下ごしらえや縫い物など、一人一人の生活歴や力を活かした役割を担ってもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や健康状態を考慮し、外気浴や散歩などの外出の機会を作っている。桜や菜の花が咲いている季節は、外出の機会を設け、全員が見物できるようにした。	心身の活性化につながるよう、日常的に近隣散歩や買い物に出掛けており、また花見や紅葉狩り等の行事外出も積極的にし、地域での生活が体感できる支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理に対して、持参していないと不安がる方には、ご家族と相談して小銭を自己管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に電話をかけられる体制がある。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共有の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、季節に合わせた飾りを提示している。大きな窓から見える景色で季節感を味わうことが出来る。車椅子でも安全に移動出来るように工夫している。浴槽を深めに設置し、温泉気分を味わえるようにしている。	共有空間の壁には、利用者の手芸作品や行事写真が飾られている。採光・臭気・温湿度・換気に注意を払い、清潔で居心地のよい共有空間となっている。リビングから続くテラスは日光浴や暖かい日のティータイムに利用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには食卓テーブルやソファがあり、気の合った入居者様同士で過ごす事が出来るよう配慮している。居室以外でも一人になれたり、思い思いに過ごせる場所がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや寝具、ぬいぐるみ等を持ち込み、居心地よく安心して過ごせるよう努めている。	利用者馴染みの家具や生活用品を、それぞれの自宅から持参している。また各居室には洗面台・トイレ・クローゼットが完備され、心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、廊下やトイレ等に手すりを設置しており、歩行訓練時や排泄時等、安全に移動出来るように配慮している。		